

## 調査の概要

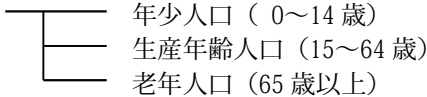
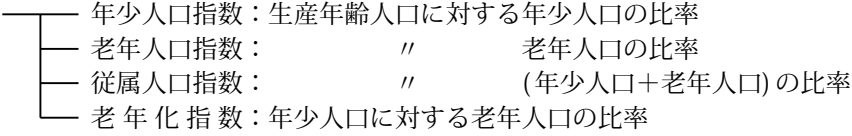
- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：毎年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

この調査は、平成27年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

## 4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横 浜	横浜市
川 崎	川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県 西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

## 用語の解説

- 1 年 齢：調査日前日による満年齢
- 2 年齢（3区分）別人口 
- 3 年齢構造指数 
- 4 性 比：女性100人に対する男性の数
- 5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢(各歳)} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{ (満年齢後の経過月数調整値)}$$

(小数点第3位以下切り捨て)

## 利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、昭和51年1月1日現在調査（昭和50年10月1日現在実施の国勢調査による年齢別人口を基礎として推計）から本県が毎年実施しているものであり、本報告書に使用しているそれ以前の数値は、大正9年から総務省が5年ごとに実施している国勢調査の統計を使用しています。
- 2 年齢不詳は、平成27年国勢調査の数値で、国勢調査の中間年次（平成28年～32年）はその数値となります。
- 3 全国の数値は、「人口推計」（総務省統計局）(<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm#monthly>)を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。「ポイント」は小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合があります。
- 6 人口の総数には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 7 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。

## 調査結果の概要

### 1 年齢（3区分）別人口

- (1) 平成29年1月1日現在の神奈川県の新人口は、914万7400人(男性456万6154人、女性458万1246人)です。【表1、3、4参照】
- (2) 年齢(3区分)別人口は、年少人口(0～14歳)112万8426人、生産年齢人口(15～64歳)571万5800人、老年人口(65歳以上)222万248人となり、老年人口が年少人口を109万1822人上回っています。昭和51年1月1日調査(調査開始年)と比較すると、総人口は、272万4566人増加しており、年少人口は51万2003人減少、生産年齢人口は127万8010人増加、老年人口は、187万9283人の増加となっています。【図1、表1、11参照】
- (3) 平成28年1月1日現在の調査(以下「前年調査」という。)に比べると、総人口は1万9363人増加しており、年少人口は9355人減少、生産年齢人口は1万9712人減少し、老年人口は4万8430人増加となっています。【図2、表1、6、11参照】
- (4) 年齢(3区分)別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.1ポイント低下し12.4%(全国値12.4%)、生産年齢人口は0.4ポイント低下し63.1%(同60.2%)、老年人口は0.5ポイント上昇し24.5%(同27.4%)となっており、全国値と比べると、年少人口は同率、生産年齢人口は2.9ポイント高く、老年人口は2.9ポイント低くなっています。  
【図3、表1、6参照】
- (5) 年齢構造指数のうち、年少人口指数は19.7、老年人口指数は38.8となっており、この2つの指数を合わせた従属人口指数は58.6で、これによると、1.7人の生産年齢者で1人の年少者又は高齢者を支えていることとなります。また、老年化指数は196.8で、年少者1人に対し高齢者2.0人の割合となっています。なお、これらの値はすべて全国値(年少人口指数20.6、老年人口指数45.4、従属人口指数66.0、老年化指数220.5)より低くなっています。  
【図4、表2参照】

表 年齢（3区分）別人口及び構成比

年齢(3区分)	平成29年		平成28年		増減		全国(平成29年)	
	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	ポイント	人口(万人)	構成比(%)
総数	9,147,400	100.0	9,128,037	100.0	19,363	-	12,682	100.0
年少人口 (0～14歳)	1,128,426	12.4	1,137,781	12.6	△9,355	△0.1	1,574	12.4
生産年齢人口 (15～64歳)	5,715,800	63.1	5,735,512	63.4	△19,712	△0.4	7,639	60.2
老年人口 (65歳以上)	2,220,248	24.5	2,171,818	24.0	48,430	0.5	3,470	27.4

※人口の総数は、年齢不詳を含むため、内訳と一致しない。構成比は年齢不詳を除いて算出している。

ポイントは小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合がある。

人口ピラミッド〈年齢（各歳）、男女別人口〉

図1

(昭和51年(神奈川県年齢別人口統計調査開始年)との比較)

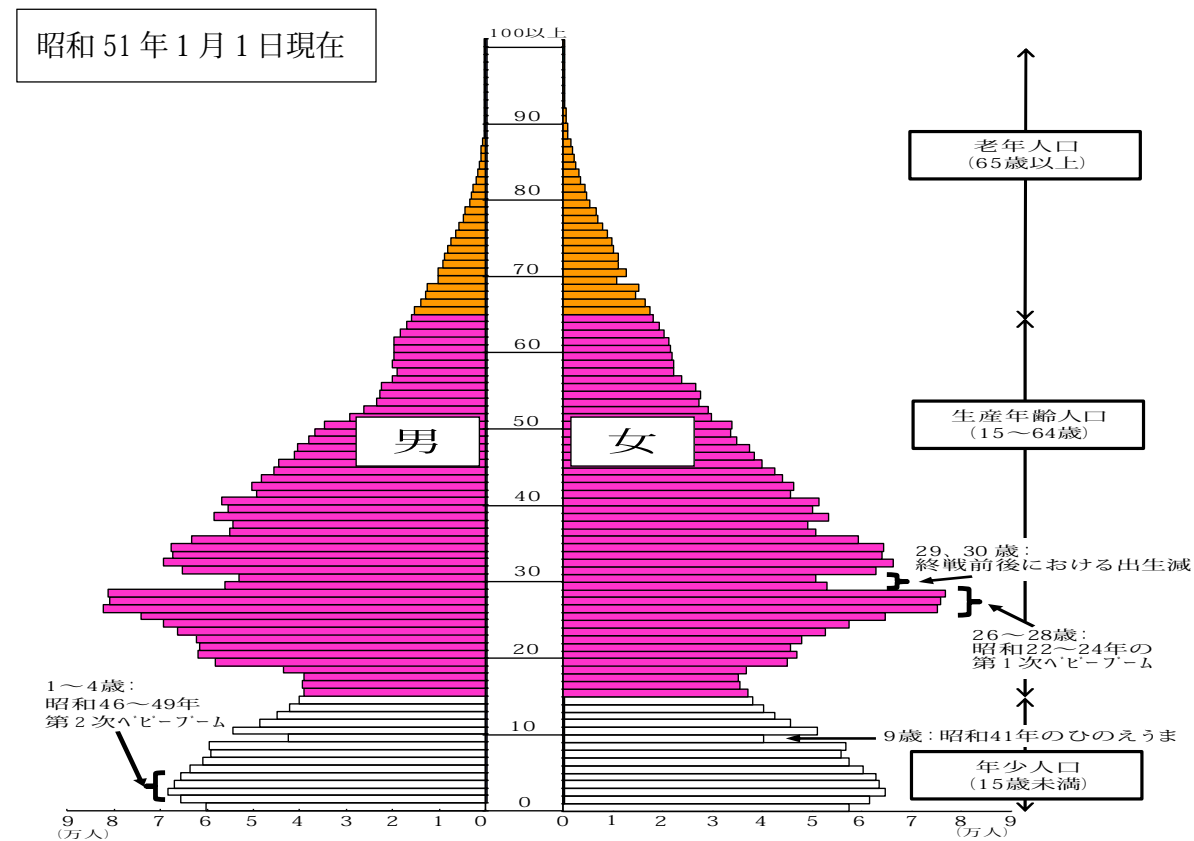
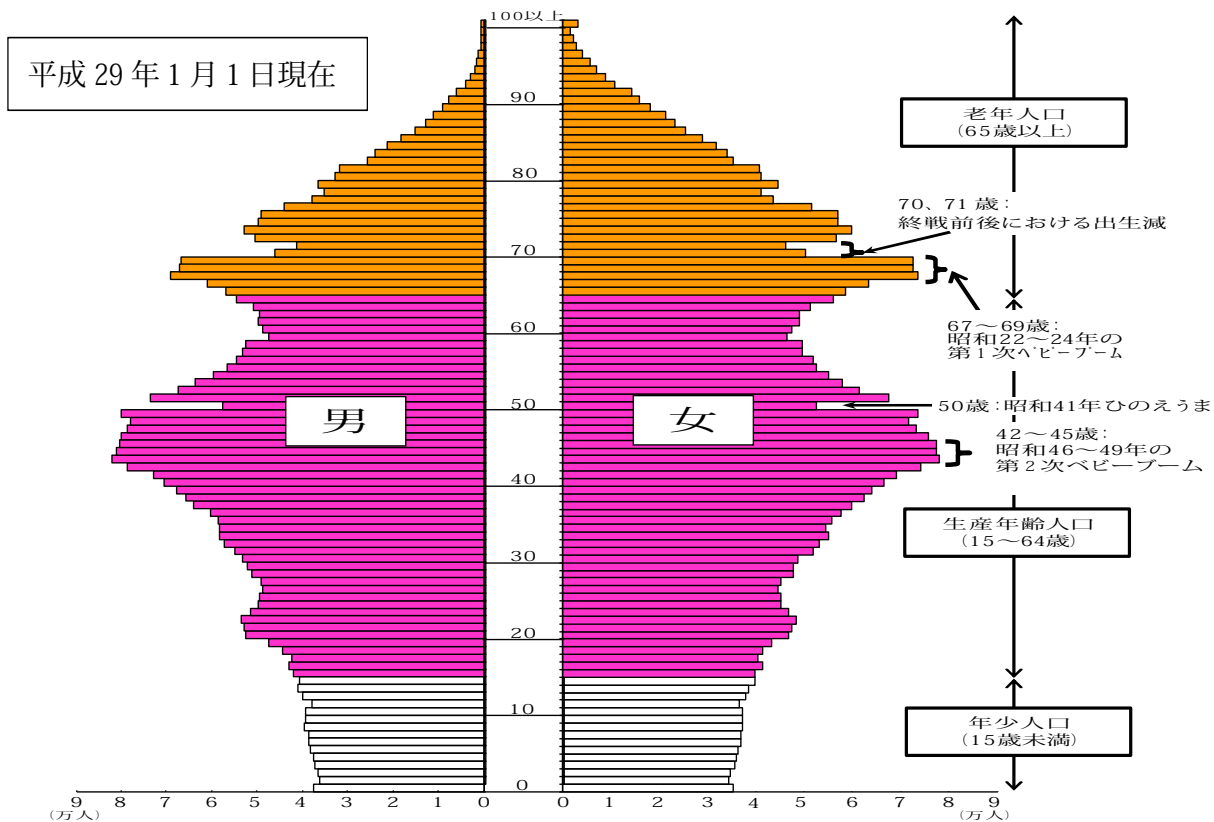


図2 年齢（3区分）別人口の推移

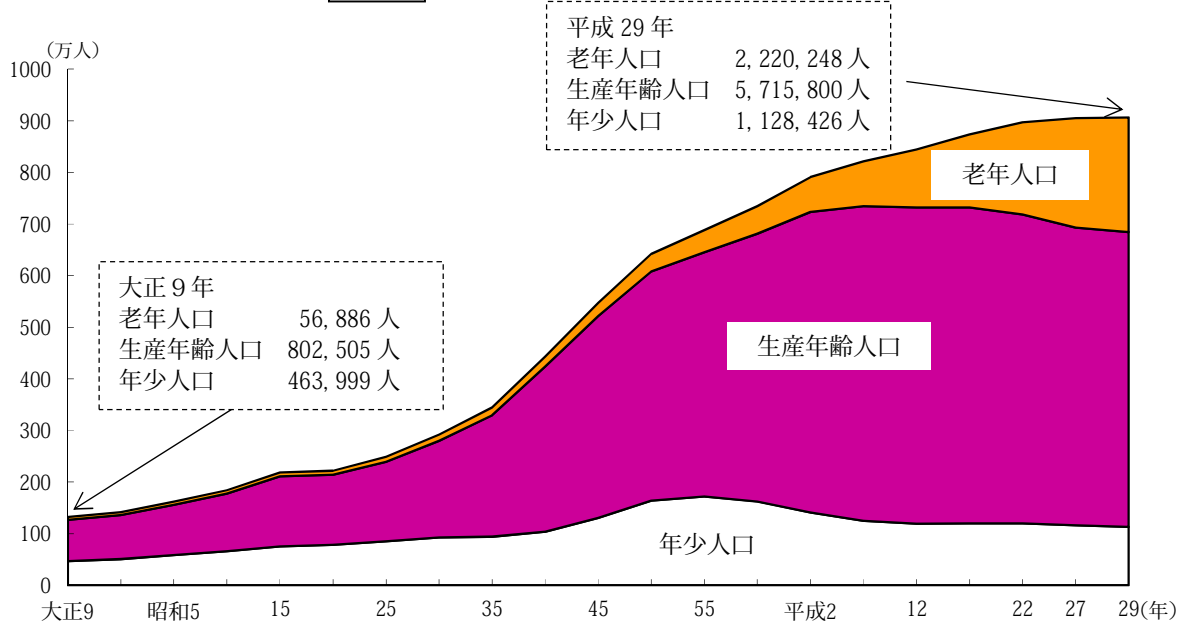
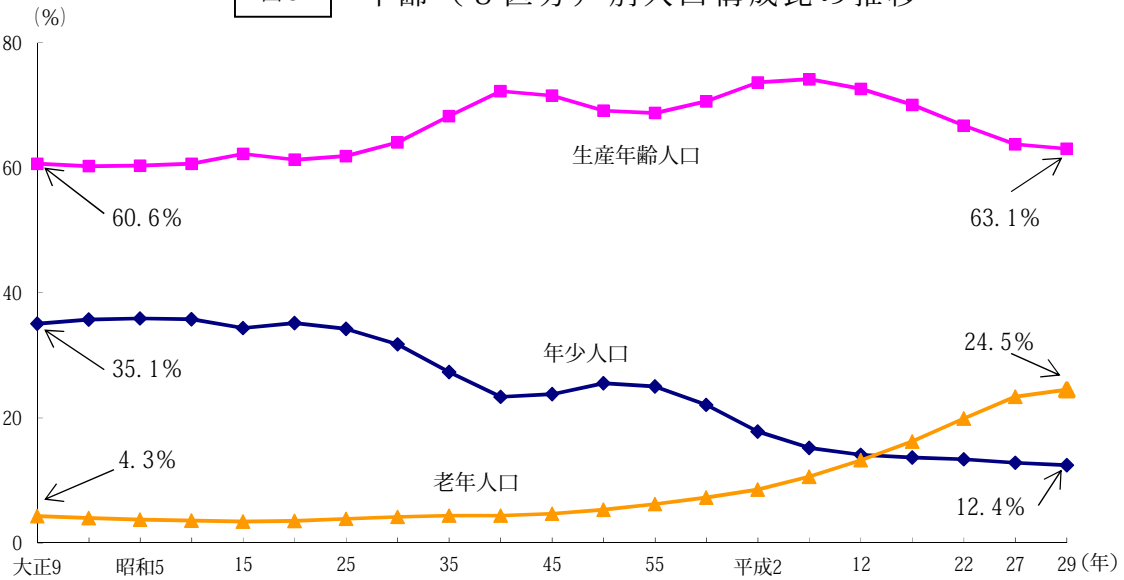
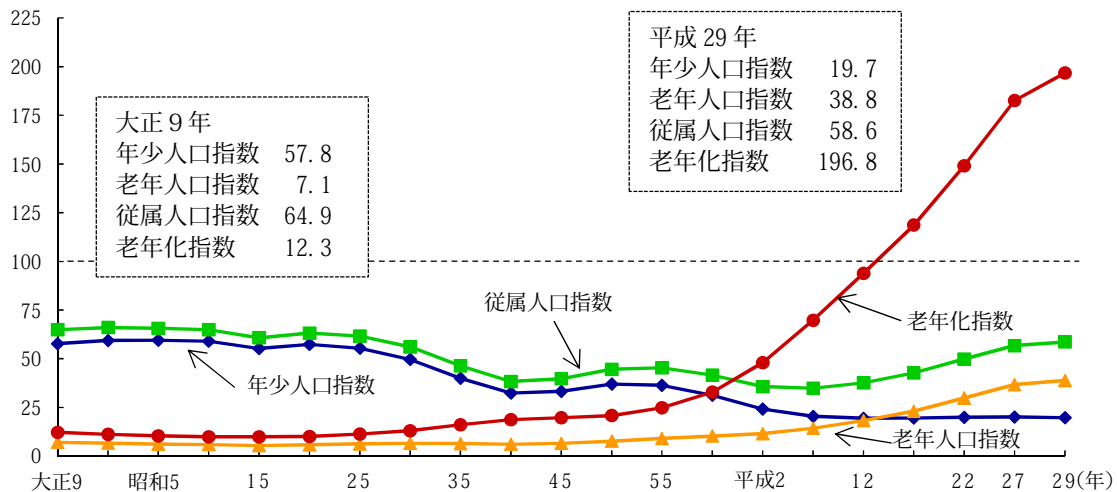


図3 年齢（3区分）別人口構成比の推移



(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出しています。

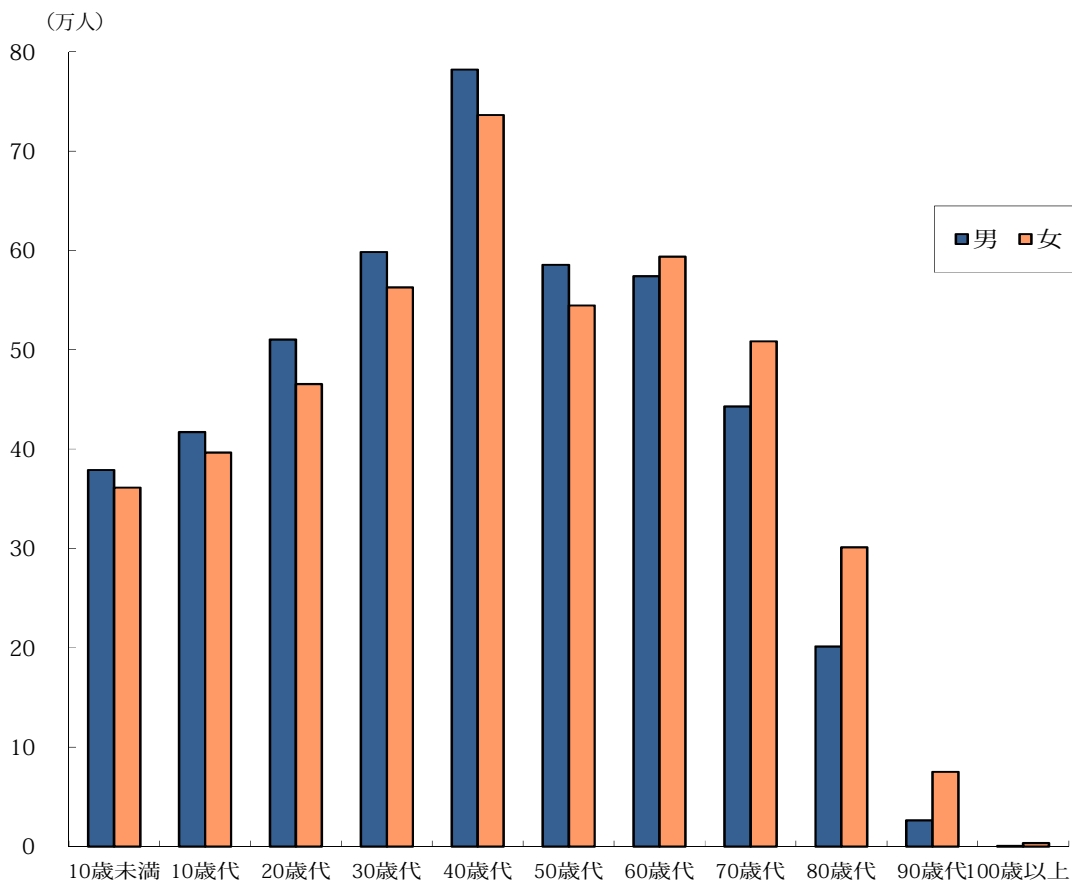
図4 年齢構造指数の推移



## 2 年齢（10歳階級）別人口

- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、40歳代が151万8177人(人口構成比16.7%)と最も多く、次いで60歳代の116万7643人(同12.9%)、30歳代の116万1036人(同12.8%)の順となっています。【表3参照】
- (2) 前年調査より10歳未満、10歳代、30歳代、60歳代の人口は減少し、その他の年齢階級は増加しています。【表3参照】
- (3) 男女別人口で見ると、男性では40歳代が78万1886人(男性に占める割合は17.3%)と最も多く、次いで30歳代の59万8345人(同13.2%)、50歳代の58万5448人(同13.0%)の順となっています。  
女性では40歳代が73万6291人(女性に占める割合は16.2%)と最も多く、次いで60歳代の59万3520人(同13.1%)、30歳代の56万2691人(同12.4%)の順となっています。  
【図5、表3参照】

図5 年齢（10歳階級）別、男女別人口数



## 3 性 比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が456万6154人、女性が458万1246人で、女性が1万5092人多く、性比(女性100人に対する男性の数)は99.7で、前年調査に比べると0.1ポイント低下していますが、全国値(94.8)と比べると4.9ポイント上回っています。【図6、表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、20～24歳が110.7と最も高く、続いて50～54歳が109.2です。なお、そのほか0～5歳から60～64歳までは100以上です。一方、65～59歳以上では、100未満となっています。  
また、全国値との比較では、5～9歳と10～14歳以外のすべての年齢階級で神奈川県が全国を上回り、50～54歳が8.1ポイント(全国値101.1)と最も上回っています。【図7、表4参照】

図6 性比の推移

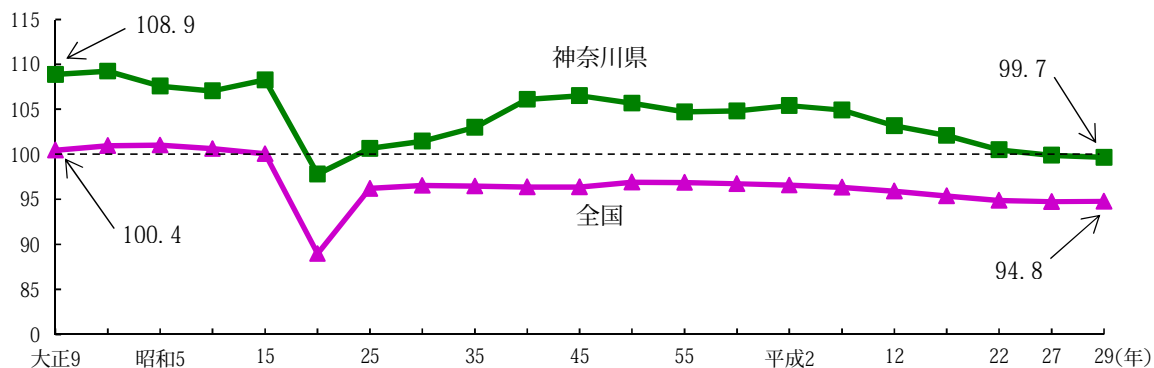
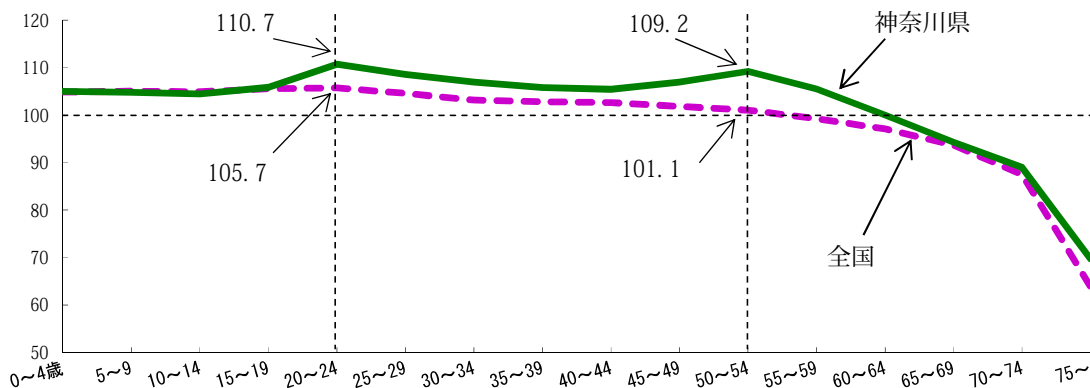


図7 年齢（5歳階級）別性比



#### 4 平均年齢

(1) 平均年齢は45.36歳で前年調査に比べ0.29歳高く、毎年平均年齢が上昇しています。

【表5参照】

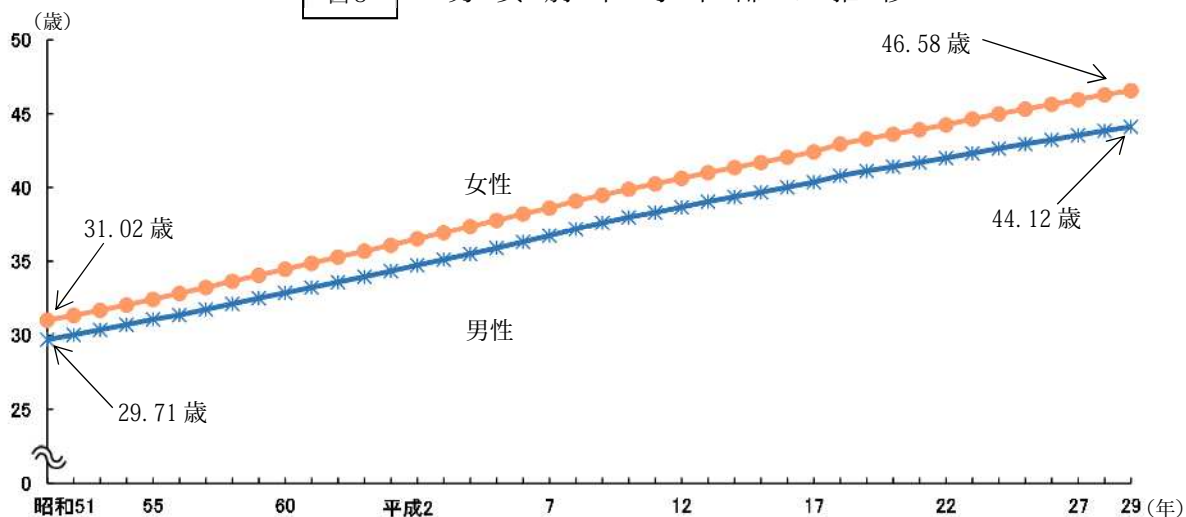
(2) 男女別平均年齢は、男性が44.12歳(前回調査に比べ0.27歳上昇)、女性が46.58歳(同0.29歳上昇)で、男女を比べると女性が2.46歳高くなっています。【図8、表5参照】

(3) 県内6地域別の平均年齢が最も高い地域は横須賀三浦地域で48.76歳、次に県西地域で48.49歳。最も低い地域は川崎市で43.03歳、次に県央地域の45.17歳となっています。

また、市区町村別では真鶴町(54.33歳)が最も高く、中原区(40.81歳)が最も低くなっています。

【表7、10参照】

図8 男女別平均年齢の推移



## 5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 地域別の年齢（3区分）別人口構成比の状況は、年少人口の構成比が最も高い地域は湘南地域で12.8%、次に川崎市で12.8%。最も低い地域は県西地域で11.4%、次に横須賀三浦地域で11.4%です。

また、市区町村別では都築区（16.5%）が最も高く、箱根町（7.4%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

- (2) 生産年齢人口の構成比が最も高い地域は川崎市で67.4%、次に横浜市で63.6%。最も低い地域は横須賀三浦地域で57.4%、次に県西地域の58.1%となっています。

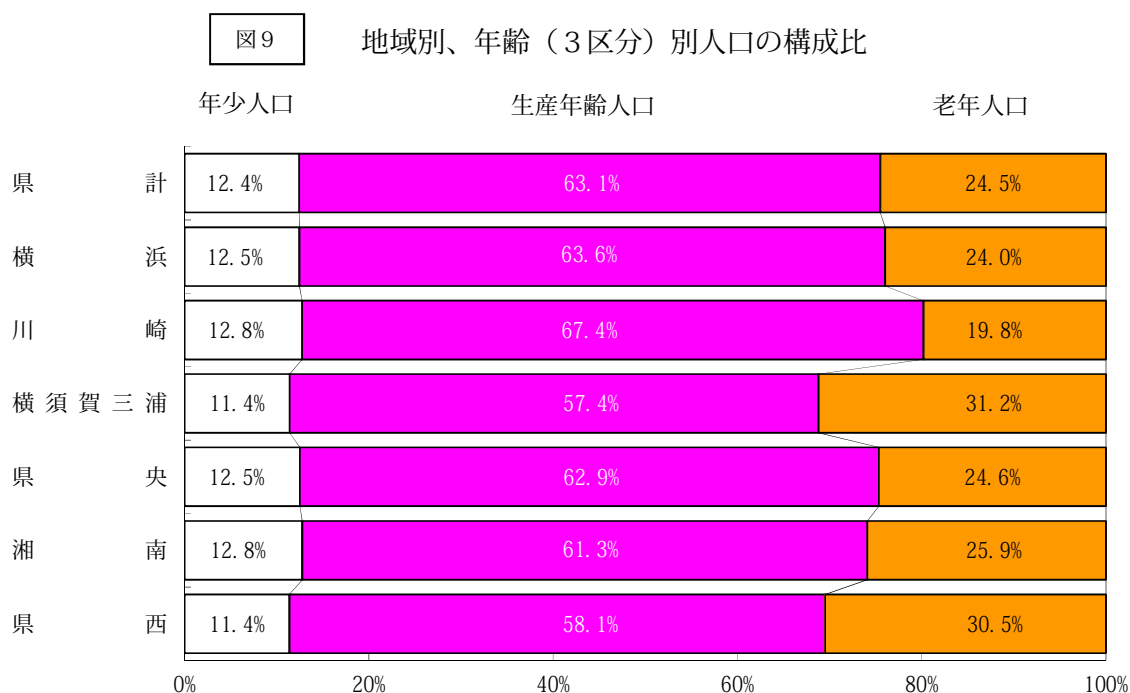
また、市区町村別では中原区（71.7%）が最も高く、湯河原町（50.7%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

- (3) 老年人口の構成比が最も高い地域は横須賀三浦地域で31.2%、次に県西地域で30.5%。最も低い地域は川崎市で19.8%、次に横浜市で24.0%となっています。

また、市区町村別では湯河原町（40.6%）が最も高く、中原区（15.2%）が最も低くなっています。

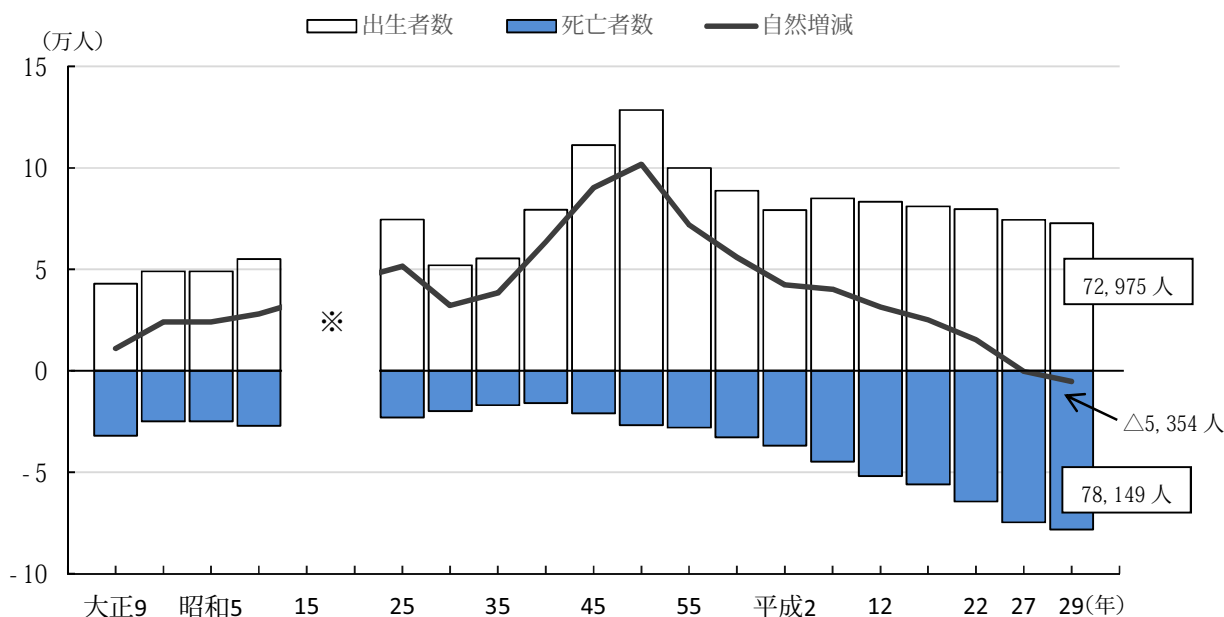
【図9、表6、10参照】



## 6 年齢別異動人口

- (1) 平成 28 年中の人口増減は 1 万 9363 人増で、その内訳は自然増減が 5354 人減、社会増減が 2 万 4717 人増となっています。【表 12 参照】
- (2) 自然増減[出生者－死亡者](5354 人減)は、出生者が 7 万 2795 人、死亡者が 7 万 8149 人となっています。【図 10、表 12 参照】
- (3) 社会増減[転入者－転出者](2 万 4717 人増)は、転入者が 48 万 6889 人、転出者が 46 万 2172 人となっており、年齢 5 歳階級の社会増減は、20～24 歳が 1 万 3484 人増と最も大きく、続いて 15～19 歳が 6975 人増となっています。【表 12 参照】
- (4) 年齢(10 歳階級)別転入・転出者数は、10 歳未満及び 60 歳代の年齢階級で転出超過(社会減)となり、その他の年齢階級で転入超過(社会増)となっています。  
 なお、20 歳代が転入者(16 万 7605 人)転出者(15 万 205 人)とも最も多く、次に 30 歳代が転入者(12 万 2286 人)転出者(12 万 1811 人)とも多くなっています。【図 10、表 13 参照】

図 10 出生・死亡者数及び自然増減数の推移



※昭和 14 年から昭和 20 年までの出生・死亡者数はデータ又は集計がありません。

図 11 年齢(10 歳階級)別転入・転出者数

